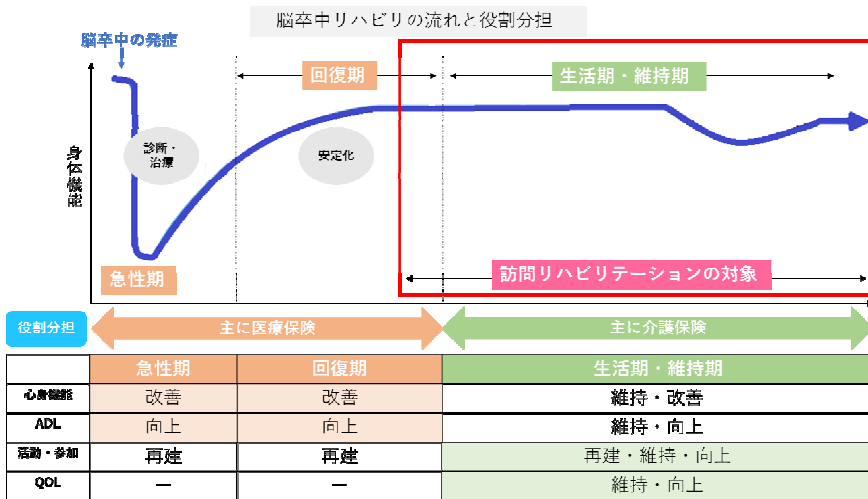
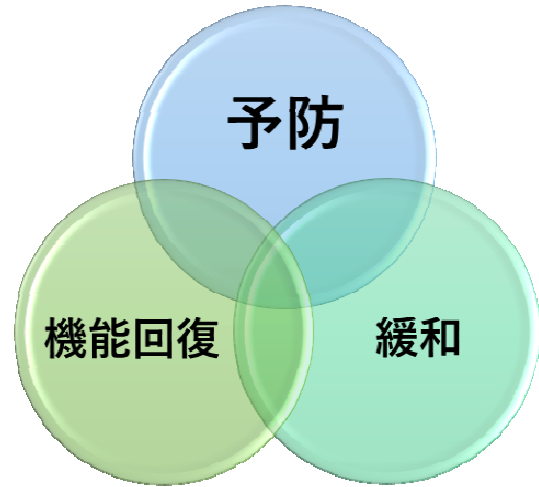


# ～その人らしさに寄り添うリハビリテーション～

利用者それぞれが、これまでの生活スタイルや趣味を持っています。  
全身状態に合わせながら、できるだけ寄り添い、希望の実現を目指していきます。

## リハビリテーションの方針

- 結いの手のリハビリテーションは、予防リハビリテーションを主軸に取り組んでいます。さらに身体機能向上を望む方へは機能回復リハビリテーションを提供します。終末期にできるだけ安楽に過ごすことを望む方へは緩和リハビリテーションを提供します。
- 3本の柱を掲げながら、離床・臥床の支援や余暇活動の支援、定期レクリエーションの開催、外出支援なども実施しています。
- 回復期後期、生活期、終末期と幅広いフェーズで要介護3～5の利用者を対象としています。



### リハビリテーション内容

- ・ 関節可動域練習
- ・ 筋力トレーニング
- ・ 歩行や車椅子駆動の練習
- ・ 日常生活動作の練習
- ・ 呼吸介助、吸痰介助
- ・ 自主練習の指導や課題の提供
- ・ レクへの参加促進
- ・ ベッドポジショニング
- ・ 車椅子シーティング など

### 【予防リハビリテーション】

#### 目的

- 利用者自身の日常生活動作・趣味活動・社会活動を継続してできるように、心身機能の低下を予防していきます。結果的に、日常生活動作の介助量増加の予防にもつながります。
- 地域包括ケアシステムでも推進されており、生活期において最重要です。

#### 内容

- 具体的には「ややきつい」と思う程度の筋力トレーニングや有酸素運動を行い、ご本人の趣味を生かした作業活動や気分転換の屋外散歩、周辺商業施設への買い物同行なども、希望に沿って実施します。

### 【機能回復リハビリテーション】

#### 目的

- 「トイレ一人で歩いて行けるようになりたい。」などの具体的な目標を利用者と共有し、身体機能回復と目標達成に向けて取り組んでいきます。

#### 内容

- 介入可能な頻度と時間の中で、利用者一人ひとりに合わせた高負荷な訓練メニューを提供していきます。
- 他職員と目標を共有し、日常生活中で過介助とならないよう、安全面に配慮した上で利用者自身ができることを応援し、関わっていきます。

### 【緩和リハビリテーション】

#### 目的

- 「できるだけ安楽に過ごしたい。」という利用者の希望に寄り添い、痛み・苦痛の緩和、安楽な生活の環境調整に向けて取り組んでいきます。

#### 内容

- 浮腫み・凝りのある部位のマッサージ、関節可動域練習、長時間の臥床に伴う褥瘡を予防するための体位交換やポジショニング、呼吸のしづらさを緩和するための呼吸介助や吸痰介助などを行います。
- 安全に実施可能な範囲で、定期的開催しているレクリエーションへの参加を勧めることもあります。

・ 身体状態の変化に留意しながら、希望に寄り添ったリハビリテーションを提供できるようリハビリ内容は随時変更・追加しながら行います。

## 【予防リハビリテーション】

A様（70代、男性、要介護5）  
診断名：脳梗塞左片麻痺  
（入居期間：約1年半経過）  
方針：予防

### 経過

約20年前に脳梗塞発症、骨折の既往もあり入退院、施設入所しながら在宅生活をしていました。

### アプローチ

残存機能のトレーニング/歩行訓練/  
アクティビティや屋外での気分転換

もともとスポーツ好きでリハビリも積極的。施設内の日常生活では精神的に不安定な日があり、スタッフや他入居者に対して、高圧的な言動や感情失禁がみられた。「歩きたい、体を動かしたい」「気晴らしに外に行きたい」等、お話があったため、リハビリで歩行訓練や屋外への散歩、アクティビティでの機能訓練、毎月実施するレクリエーションへの参加をしていただきながらご本人の訴えにできるだけ沿いつつ、機能維持を目指している。

## 【機能回復リハビリテーション】

B様（80代、女性、要介護5）  
診断名：事故後の運動器リハビリ  
（入居期間：約半年経過）  
方針：機能回復

### 経過

事故により受傷し、前医では不穏傾向がみられたため、ベッドで抑制帯を使用されていた。日常生活動作全介助、食形態は嚥下困難食の状態が入居。

### アプローチ

残存機能のトレーニング/  
歩行練習/日常生活動作練習

施設では抑制帯は使用しなかったが、一人で動き出すことが多く、ふらつきが強いため、転倒のリスクがあった。何度も危険な行動があるので傾聴をすると、「トイレに行きたい。介護さんと呼ぶのが申し訳ない。」とのこと。自分でトイレに行くことを目標に、リハビリ介入し、歩行器歩行にてトイレ動作自立となった。また、歩行器歩行を獲得したことにより好きな時間にホールに移動し余暇活動も楽しんでいる。

## 【緩和リハビリテーション】

C様（90代、女性、要介護4）  
診断名：末期がん  
（入居期間：約5ヶ月）  
方針：緩和/予防

### 経過

体調不良で入院、進行がんを認めましたが、積極的治療しない方針となる。入居時は痛みの訴えなく、起居移乗動作は軽介助レベル。車椅子ベースの生活。

### アプローチ

残存機能のトレーニング/  
歩行・起立練習/離床の促し

「入院したら歩けなくなった。少しでも歩けたらいいな。」と希望があり、状態に合わせて起立訓練や手すり歩行を実施。5m程の手すり歩行が可能となり、「歩けたね。」と笑顔もみられた。徐々にレベル低下して歩行訓練は困難となったが、好きな煎茶を飲むために車椅子への離床や、レクに参加をすることで気分転換を図りながら、お看取りの数日前まで離床して過ごすことができた。

## リハビリに加えて、看護師・介護士による離床と観察を行い、寝たきりゼロを目指しています！

これにより心身機能の維持につながると考え取り組んでいます。

- ✓ 施設内に理学療法士・作業療法士の2職種が在籍しており、生活の流れを把握しながら日常生活のサポートをします。希望に沿ったリハビリテーションの提供のほか、
  - ・福祉用具の選定
  - ・ベッド上でのポジショニング
  - ・車椅子のシーティング 等実施しています。
- ✓ ナーシングホーム結いの手 リハビリスタッフ数  
PT/5名 OT/2名  
（全スタッフ回復期リハビリの経験あり！）



レクの様子